

第4期中期計画に設定する指標の令和11年度目標値

1 中期計画に設定する目標指標

資料 1 - 5

指標の説明				令和11年度目標値								(参考)他類似病院の平均値 (R4地方公営企業決算(総務省)より作成)								
第4期中期計画項目番号	指標名	単位	指標の考え方・算定式	信州		駒ヶ根		阿南		木曾		こども		木曾看	機構全体	信州 300床以上 ~400床未 満一般病院	駒ヶ根 精神病院	阿南 50床以上~ 100床未 満一般病院	木曾 100床以上 ~200床未 満一般病院	こども 200床以上 ~300床未 満一般病院
36 種類				目標値	考え方	目標値	考え方	目標値	考え方	目標値	考え方	目標値	考え方	目標値	目標値					
2-1	救急車応需率	%	応需率(信州医療センター):救急車で来院した患者数/救急車受け入れ要請人数(出典:QIプロジェクト)	97.0	・2023年度実績:95.8% 2024年度上半期実績: 96.1% ・2023、2024年の経過から増えてきているが、受け入れ困難を考慮して目標値を97%とした。											-	-	-	-	-
2-1	在宅医療件数(訪問診療・訪問看護・訪問リハ)	件	訪問診療・訪問看護・訪問リハの件数 ※訪問看護ステーションの実績除く(訪問看護ステーションの実績は指標No23へ)	50	R5実績から設定			396		1,200	訪問診療300件(+20%)、 訪リハ900件(+5.8%)を見込む(R6目標比)	120	R6上半期58件を踏まえて設定			-	-	-	-	-
2-1	人間ドック(日帰り)	件		3,360	令和5年度実績に、経営改善の取組による件数増を見込んで設定			317		588	R6年度目標と同数 内視鏡医師の増減が不確定要素					-	-	-	-	-
2-1	機器共同利用件数	件	CT、MRI、リニアック、ガンマカメラ、骨密度測定装置、US(超音波検査)、UCG(心臓超音波検査)、ABI(動脈硬化検査)、GIF(上部消化管内視鏡検査)	1,100	2021~2023年平均: 1042件 のため、1,100件に設定			220		165	R5、R6の平均値より CT:100 MRI:50 骨密:15 計165件	2,000	R6上半期実績988件を踏まえて設定			-	-	-	-	-
2-1	m-ECT件数	件	m-ECTの使用件数			380	過年度実績、収支計画等から作成									-	-	-	-	-
2-1	クロザピン新規導入件数	件				6	精神科急性期医師配置加算と同等の人数									-	-	-	-	-
2-1	ウォークイン応需率	%				85.0	過年度実績、収支計画等から作成									-	-	-	-	-
2-1	新生児マススクリーニング検査等の高度検査機器を活用した遺伝子検査件数	件										27,111	先天性代謝異常等検査(ほぼ100%)、実証事業2疾患の検査(ほぼ100%)、拡大スクリーニング検査(R7.1~50%想定)、人口減に伴う減少率0.94を乗じて設定			-	-	-	-	-
2-1	成人移行期介入患者数	人										500	R4→R5増加率+4%、R6以降も漸増と見込む			-	-	-	-	-
2-1	小児がん 長期フォローアップ外来患者数	人										110	R6上半期実績59件を踏まえて設定			-	-	-	-	-
2-1	大腸内視鏡検査件数	件		1,500	・コロナ流行前H29~R1の平均:1441.7 ・1日の受け入れ人数の拡大を検討中のため、1500人と設定											-	-	-	-	-
2-1	対策型胃内視鏡検診受託件数	件		470	・統計によると、須坂市の人口は、令和2年から令和12年までの10年間で約100人減少すると想定される。 ・対策型胃内視鏡検診の対象者は50歳以上で偶数年齢になる方なので、対象者が10年で50人(=100人÷2)減ると予想される。 ・平成30年から令和11年度までの11年間で、対象者が約50人減っているとすると、令和11年度の対象者は約467人(=517人-50人)となる。 ・また、検診によって治療する人が増えるので、患者はそこまで増えていかないと予想される。 ・よって令和11年度の実診患者数の目標値は467人											-	-	-	-	-
2-2(2)	介護老人保健施設利用実績(入所者数)	人	延入所者数					14,600		15,400	R6実績と同数を見込む					-	-	-	-	-
2-2(2)	介護老人保健施設利用実績(通所者数)	人	延通所者数					600		443	目標値50人/月 R6年度の目標値を維持					-	-	-	-	-
2-2(2)	訪問看護ステーション利用実績(利用者数)	人	延利用者数	5,950	・R5実績:5929人 ・R6から訪問看護ステーションを開設したが、訪問看護・訪問リハ件数はR5を下回る見込み。 ・訪問看護ステーションが軌道に乗り、件数が増加することを考慮し、R5実績をベースにたてた。	2,033	過年度実績、収支計画等から作成	2,538		4,800	訪問看護…R7年度目標(2250)から毎年1.3%程度ずつの減少(R7年度の年度目標参考)2250×(98.7%) リハビリ…R6年度から訪問看護のリハビリを開始、徐々に増加見込み約320件。今後3割程度増加見込みで算出。					-	-	-	-	-
2-2(2)	介護医療院利用実績(患者数)	人	延患者数							5,212	R5実績(利用率71.4%)と同数					-	-	-	-	-

指標の説明				令和11年度目標値										(参考)他類似病院の平均値 (R4地方公営企業決算(総務省)より作成)						
第4期中期計画項目番号	指標名	単位	指標の考え方・算定式	信州		駒ヶ根		阿南		木曾		こども		木曾看	機構全体	信州 300床以上 ~400床未 満一般病院	駒ヶ根 精神病院	阿南 50床以上 ~100床未 満一般病院	木曾 100床以上 ~200床未 満一般病院	こども 200床以上 ~300床未 満一般病院
				目標値	考え方	目標値	考え方	目標値	考え方	目標値	考え方	目標値	考え方	目標値	目標値					
2-2(2)	紹介率	%	(紹介初診患者数+初診救急患者数)÷初診患者数 ※こども病院及び信州医療センター(R3から)については、地域医療支援病院承認要件で計算 紹介初診患者数÷初診患者数	40.0	R6…R5比1.01%増 R7以降…増加割合を 1.02%と見込むと R11:38.9%≒40%	50.0	過年度実績、収支計画等から作成					92.0	R6上半期実績 90.8%を 踏まえて設定			-	-	-	-	-
2-2(2)	逆紹介率	%	逆紹介患者数÷初診患者数	50.0	R6…R5比1.13%増 R7…増加割合は1.05% (上記1.13%の半分)と見込む (R6取り組み強化による 増加のため) R8以降…増加割合は 1.04%と見込む(R7からの 上り幅が緩やかと見込んだ) R11:47.7%≒50%	40.0	過年度実績、収支計画等から作成					120	R6上半期実績 118.7% (地域医療支援病院計算式) を踏まえて設定			-	-	-	-	-
2-3(4)	看護師国家試験の合格率	%	看護師国家試験の本校合格者÷本校受験者											100		-	-	-	-	-
2-3(4)	入学者数	人	本校の入学者数											21	・入学者数21 人を数値目標 とする。 ←定員30人の 7割(県内の 他の専門学校の 平均的な状況)	-	-	-	-	-
2-4(2)	クリニカルパス使用率	%	パス新規適用患者数÷新入院患者数(出典:全 自病)	第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		-	-	-	-	-
2-4(2)	患者満足度調査結果(入院)	%	信州・阿南・こども:日本医療経営機構の患者満足度調査、駒ヶ根:独自の患者満足度調査、木曾:日本医療機能評価機構の患者満足度調査 以下の設問に対する満足の割合 信州、阿南、こどもの入院患者:診療の満足度 信州、阿南、こどもの外来患者:医療に対する満足度 駒ヶ根の入院:当院に入院してよかった 駒ヶ根の外来:当院を受診してよかった 木曾の入院・外来:総合満足度	第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		-	-	-	-	-
2-4(2)	患者満足度調査結果(外来)	%	同上	第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		-	-	-	-	-
3-1	職員給与費対医業収益比率	%	職員給与費/医業収益(=入院収益+外来収益+ その他医業収益)	第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		61.0%	107.1%	80.1%	71.9%	69.0%
3-4	超過勤務時間の実績(医師)(一人平均)	時間/年	超過勤務の総時間(年間)/常勤医師人数	225	超過勤務削減計画に基づき 医師、職員全体の超過勤務 総時間を算定し設定	70	過年度実績、収支計画等から作成	220	R6年度見込みと同じ	373	分母=超過発生者のみ 6333h/17名≒373h	362	第4期中期計画の超過削減 計画に基づき、削減目標金 額を達成するための削減率・ 時間数を算定し設定	303		-	-	-	-	-
3-4	超過勤務時間の実績(職員全体)(一人平均)	時間/年	超過勤務の総時間(年間)/常勤職員全体人数	99	超過勤務削減計画に基づき 医師、職員全体の超過勤務 総時間を算定し設定	37	過年度実績、収支計画等から作成	51	R6年度見込みと同じ	120	分母=超過発生者のみ 26432h/220名≒ 120h	128	第4期中期計画の超過削減 計画に基づき、削減目標金 額を達成するための削減率・ 時間数を算定し設定	102		-	-	-	-	-
3-5	職場環境満足度	%	日本医療経営機構の病院組織文化調査(木曾病院以外) 「今の職場に満足、他に移りたくない」の設問に 対する満足(「全くその通り」「ややそうだ」)の割合 木曾病院は日本医療機能評価機構の満足度調査設問「勤続意欲」のうち、「思う」「まあまあ思う」の割合	第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		第3期最終年 度より改善		-	-	-	-	-
4-1(4)	延入院患者数	人		64,580	・一般病棟62,780人 (第4期中期計画に係る収支 計画におけるR11患者数を 引用) ・結核病棟 1,800人 (5人/日×30日×12ヶ月 =1,800人)	39,081	過年度実績、収支計画等から作成	14,125	入院患者は70歳以上が大多数のため、R6年度入院患者数見込みの0.7%減(65歳以上人口減少率0.7%)で算出した。 14630×0.993×0.993×0.993×0.993	40,236	R6上半期の対前年度比増加率をR5下半期患者数に 乗じ算出	48,000	第4期中期計画の収支計画の入院患者数より		-	-	-	-	-	
4-1(4)	新入院患者数	人		5,111	過年度実績に紹介率目標の伸び率を勘案して設定	480	過年度実績、収支計画等から作成	777	R3~6(見込み)の平均(延入院患者数の5.5%、退院患者割合と同数)	2,151	R6上半期の対前年度比増加率をR5下半期患者数に 乗じ算出	4,272	R6.11月までの新入院/延入院患者数=8.9%により算出		-	-	-	-	-	
4-1(4)	病床利用率	%	(24時時点の患者数÷運用病床数)×100 ※第4期からは感染症病床、結核病床、療養病床を除いた運用病床で算定するよう統一	76.4	(内訳) 延べ入院患者数/(病床数× 日数)×100 一般病棟62,780/(225× 365)×100=76.4% (第4期中期計画に係る収支 計画におけるR11患者数を 引用) ・結核病棟 1,800人 (5人/日×30日×12ヶ月 =1,800人)	83.0	過年度実績、収支計画等から作成	70.3	52床で算出 (14125-退院患者数777) ÷(52床×365日)×100 ※新入院患者数=退院患者数 (例年ほぼ同数)	76.0	届出病床数138床 退院患者数2,131で試算	74.2	第4期中期計画の収支計画の入院患者数より設定 目標値:稼働率 81.0%→利用率74.2%		-	-	-	-	-	
4-1(4)	1人1日当たり診療単価(入院)	円	入院収益÷延入院患者数	63,100	収支計画より	33,038	過年度実績、収支計画等から作成	37,805		39,214		125,180			62,697	23,419	29,348	40,846	56,563	
4-1(4)	DPC入院期間II以内退院率	%	入院期間II以内の退院患者数÷全退院患者数	70.0	70.0% ・現目標を継続					55.0	日本経営Liblaiによるベンチマーク (R6上半期実績)	65.0	R6.12月までの実績値 (63.6%)より設定		-	-	-	-	-	

指標の説明				令和11年度目標値								(参考)他類似病院の平均値 (R4地方公営企業決算(総務省)より作成)								
第4期中期計画項目番号	指標名	単位	指標の考え方・算定式	信州		駒ヶ根		阿南		木曾		こども		木曾看	機構全体	信州 300床以上 ~400床未 満一般病院	駒ヶ根 精神病院	阿南 50床以上~ 100床未満 一般病院	木曾 100床以上 ~200床未 満一般病院	こども 200床以上 ~300床未 満一般病院
				目標値	考え方	目標値	考え方	目標値	考え方	目標値	考え方	目標値	考え方	目標値	目標値					
4-1(5)	ジェネリック医薬品使用割合(数量ベース)	%	後発医薬品の数量 ÷ (後発医薬品がある先発医薬品の数量+後発医薬品の数量)(出典:厚労省HP)	90.0	ここ数年、PDCAの指標にもジェネリック医薬品使用割合を設定し、目標値は継続して90%を掲げており、ほぼそれをクリアしている状況です。一方で、ジェネリック医薬品の供給不安について現時点でその解消の見込みは立っておらず長期化が予想されます。これまでと同様の流れが続くと考え、目標を設定しました。	98.0	過年度実績、収支計画等から作成	85.0	後発医薬品使用体制加算2を維持する	90.0	厚労省の目標値は80% 当院目標は以前より90% (継続)	93.0	過年度実績より設定 (R5:92.2%)			-	-	-	-	-
4-1(5)	ジェネリック医薬品使用割合(金額ベース)	%	比率=後発医薬品費÷(後発医薬品のある先発医薬品費+後発医薬品費)	50.0	血液凝固因子や化学療法薬など、高額医薬品の院内使用が多く、金額ベースでは他施設に遅れをとり、ようやく40%台に達したところで、今後、高額医薬品の代表であるバイオ医薬品も特許切れにより後続医薬品が登場しますので、切り替えを一層推進していきま、高額医薬品の院外処方化の動きも進めていきますので、令和11年頃には50%を達成できるのではないかと見込んでいます。	85.0	過年度実績、収支計画等から作成	65.0	国で定めた目標値	65.0	厚労省の目標値と同一目標 木曾実績76.6%(直近1年)	63.0	過年度実績より設定 (R5:62.4%)			-	-	-	-	-
9-1	コンプライアンス研修受講率	%														-	-	-	-	-
9-1	情報セキュリティ研修受講率	%														-	-	-	-	-